

被災地に目向けて

AMDA 復興現状や支援報告

東日本大震災の被災者支援を続ける国際医療ボランティア・AMDAは8日、岡山市北区伊福町の本部で、岩手、宮城県内の被災地で活動するスタッフの大政朋子さん(40)を招き、復興の現状や必要な支援についての報告会を開いた。

大政さんは岩手県大

槌町などで行う鍼灸治療や交流活動などの支援事業を紹介。仮設住宅での長引く避難生活で高齢者の外出機会が減って足腰が弱ったり、孤立して気分が落ち込む人が出ていることなどを話した。

震災から2年近くたち、全国的に被災地への関心が薄れていくこ

とへの懸念を指摘。1月下旬、宮城県気仙沼市で仮設商店街が集まって開いた「グルメ大会」を例に「全国の人が被災地に目を向け、1人でも多く足を運んでくれる工夫が必要」と訴えた。

この日は、復興事業を見込んで仙台市を訪れ路上生活に陥った

「震災ホームレス」へん約千食、カイロ24の支援としてカップめ00個なども現地の支

援団体へ送った。

(阿部光希)